

児童が主体的に読む力を育むための指導の工夫 ～説明的な文章における学び合い活動の工夫を通して～

八重瀬町立白川小学校 山城昌義

I テーマ設定の理由

現在、わが国は少子高齢化、人口減少問題などによる生産人口確保の危機など経済環境の変化が激しく、更にグローバル社会を見据えて、世界の人々と共に地球レベルの課題を協働して解決できる人材の育成が課題となっている。世界に貢献できる人材をこどう育成していくか、今後の教育の在り方が問われている中、小学校高学年の英語教科化や、高校段階での新たな教科・科目の誕生など新時代を見据えた学習内容へと変化してきている。全ての教科を学ぶ際の基本は、国語科であるということを踏まえた場合、自分自身で主体的に読み取り、日本語で考えながらコミュニケーションが取れなければならない。

次期の学習指導要領の改訂の要点として「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力」の育成が掲げられており、その実践のためのキーワードに、「アクティブ・ラーニング」(課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習)が挙げられており、今後、学習方法とその評価方法も見直されていくことになる。

また、沖縄県教育委員会が発行する「学校教育における指導の努力点」の中にも、「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付ける」とあり、その中の視点の一つとして、「主体的な学び：児童生徒が見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程を実現できているかどうか」ということが挙げられている。

これまでの授業実践を振り返ってみると、主に児童に教材文を読みとらせて自分の考えを書かせたり、グループや全体で交流会・発表会を行うといった活動だけに留まっていた。そのため、この単元を通して、児童に「どのような国語の力を付けてあげるべきか」ということを私自身が明確に捉え切れずに、曖昧なままで指導を行っていた。その結果、児童の活動が、場面ごと・段落ごとの表面的な読みとりになり、活動に関連性がなくなったりしたことで、児童に授業の展開への見通しを持たせたり、文章の構成を正確に捉える力を十分身に付けさせたりすることができなかった。

これらの課題を踏まえ、児童が比較的苦手としている説明的な文章において、主体的に読む力を育むことができるように、互いに学び合う活動を取り入れながら研究を進めたいと考えた。児童が学び合うためには、前時までの既習事項を基にしながら、あらかじめ自身の考えや意見を持って臨む必要がある。そこで教師が課題提示の仕方を工夫し、児童が学習の流れを把握しながら自身の考えを整理して学習を進めていくことで、読みを深めていくことができると考えられる。また、他者の考えとの相違点から、なぜ自分がこの考えを持つに至ったのか、その理由や根拠についても、文章を深く読んで分析的に理解していくであろう。

そこで本研究では、説明的な文章において、各自が毎時の学習課題を把握しながら互いの考えや意見を学び合う(深め合う)ことで、自身の考えを再構築するきっかけとなり、児童が主体的に読む能力を育むことに繋がるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

説明的な文章において、児童が主体的に読む力を育むことができるように、以下のような指導の工夫を行えば、児童が互いに学び合い、主体的に読み進める授業を展開することができるであろう。

- (1) 前時までの既習事項を基にして、教師が毎時の課題を明確に提示し、児童が学習の流れを把握することで、主体的に読む力を育てていくことができるであろう。
- (2) 学習形態を工夫しながら学び合い(深め合い)をおこない、お互いの考えや意見の相違点から自己の考えを再構築していくことで、主体的に読む力を育てていくことができるであろう。

2 検証計画

事前調査として、「国語についてのアンケート」や、検証授業に向けての先行授業(小単元4時間)

での様子、実態把握のための類似テスト実施などから、児童の実態把握を行っていく。

検証授業においては、授業観察、ワークシート、ノート、振り返り等により、主体的に読むことができるようになったかどうかを考察する。検証授業の実施前・実施後に、その変容を比較するための「国語についてのアンケート」を実施し、本研究の有効性を検証していく。

検証授業の対象 白川小学校 4年1組 [男子16名 女子15名 計31名]			
検証の場面	検証の観点		検証の方法
①年度始め ・ 単元導入前 の調査から	・国語の意識アンケート（年度始め4月、単元開始6月） ・単元テスト（4～6月「読むこと」領域）		・アンケートの分析 ・結果分析
	日程	活動内容・単元名（領域・時数）・説明	
	4月22日（金） 26日（火）27日（水）	・国語についての意識アンケート実施 「メモの取り方をくふうして聞こう」【話す・聞く】	※左記は本来6月実施単元であるが「読む」領域の説明文の代用として実施
	6月27日（月）	・学級実態把握・意識アンケート（単元導入前）	
②検証授業 「ヤドカリ とイソギン チャク」 【読むこと】 全9時間	6月28日（火）4校時 29日（水）6校時 30日（木）2・4校時 7月1日（金）1・3校時 4日（月）5校時 5日（火）2校時 6日（水）2校時	第1／9時 第2／9時 第3・4／9時 第5・6／9時 第7／9時 検証授業 [本時] 第8／9時 第9／9時	○説明的な文章において、課題提示の工夫と学習形態（学び合い）の工夫をすることで、児童が主体的に読む力を育むことができたか。
③まとめ ・ 単元終了後 の調査から	○課題提示の工夫や学習形態（学び合い）の工夫をしながら、互いの考えや意見を深め合う（学び合い）ことは、主体的に読む力を育むことに有効であったか。 ・国語の意識アンケート（7月）・単元テスト		・授業観察（発言等） ・ノート ・ワークシート ・毎時の振り返り（毎時間とも提出）
	7月8日（金）3校時	・単元テスト・意識アンケート（単元終了後）	

Ⅲ 研究内容（理論研究）

1 主体的に読む力を育む指導について

（1）主体的に読む力を育むことの必要性

次期学習指導要領の改訂に伴う動きとして国語ワーキンググループは第6回会合の中で「国語科におけるアクティブ・ラーニングの3つの視点」として、授業改善と学習評価の在り方について議論し、その授業改善策として①深い学び ②対話的な学び ③主体的な学びの過程の実現が求められており、文科省がその例として表1のように示した。

表1「実現するにあたって文科省が示した例」

③②① 主対深 体話い 的学的 な学な び学の び過程 の過程 過程	「国語で表現し理解することを通じて言葉の動きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し、深める学習活動にすること」を例示した。
	これからの時代、個別学習（自力解決）で授業を進めるだけでは理解度に個人差が生じ、その後の個々の到達度にも大きな差異が生じてしまう可能性もあるため、今後ますます、児童らが主体的に学び、共に学び合っているような指導を行っていくことが必要だと考えられる。

表2「思考力・判断力・表現力等の育成」

思考力 判断力 表現力 等の育成	改訂の経緯 観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を発達の段階に応じて充実させるとともに、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成のために、小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱、漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で、各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要があると指摘した。
改訂の要点	各領域では、国語の能力を調和的に育て実生活で生きて働くように、それぞれの領域の特性を生かしながら児童主体の言語活動を活発にし、国語科の目標を確実かつ豊かに実現できるように内容を改善した。

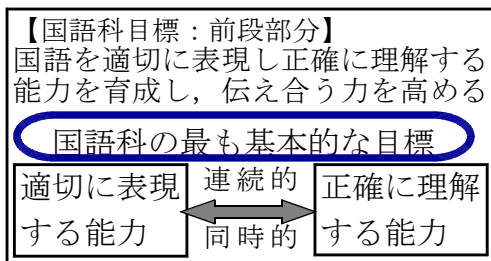


図1 連続的かつ同時に機能する

（2）小学校学習指導要領解説 国語編「国語科の目標」から（図1参照）

目標は、大きく二つの部分から構成されており、前段部には、国語科の最も基本的な目標「適切に表現する能力」「正確に理解する能力」が位置付けられている。また、「伝え合う力を高める」とは「人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めること」とあることから、互いに学び合い、交流することが大切だと考えられる。

（3）国語科に求められている読む力（表2参照）

解説「改訂の経緯」の中で、児童生徒の課題を踏まえ、「④思考力・判断力・表現力等の育成」を根本的な考え方として挙げており、説明的な文章における指導の工夫が求められている。

2 本研究における付けたい力に関わる「読むこと」の指導内容について（学習指導要領より）

(1) 「読むこと」の指導事項について

- ☒ 説明的な文章の解釈に関する指導事項
- ☒ 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項

(2) 「読むこと」の言語活動例について（※第3・4学年のみ）

- ☒ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。

(3) 説明的な文章について（表3）

表3 説明的な文章の種類

①書き手の立場を極力抑えた科学的説明文			
②書き手の立場を明確に示す新聞の社説			
③説明書	④案内文	⑤観察文	⑥記録文
⑦報告文	⑧広告文	⑨感想文	⑩論説文
⑪意見文	その他		

(4) 系統性の重視（解説国語編「改訂の要点」より）

学習の系統性を重視する上で、「指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本としている。関連付けながら、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図っている」と述べられている。

表4 「C読むこと」の各学年の目標及び内容の系統表（※「内容」は本研究関連事項のみ）

	(低) 1 学年及び第 2 学年	(中) 第 3 学年及び第 4 学年	(高) 5 学年及び第 6 学年
目標	(3) 書かれている事柄の順序場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
のな説 解文明 積史的 及 え 自 分 の 形 成 考 流	☒ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	☒ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	☒ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたんに読むこと。
	☒ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	☒ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	☒ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること。

3 課題提示の工夫について

(1) 前時までの既習事項の確認

児童自身が学習の流れを把握して授業に臨むということは、教師が授業を進めていく上で大切なことである。児童が見通しを持って臨むことで、その日の学習の理解度も大きく変わるので、毎時の導入時の中で前時までの学習を振り返り、既習事項をもとにしながら学習を展開していく。

(2) 学習の流れを作る（見通しを持たせる、発問の工夫、学習のゴール・めあての提示）

今日の学習では次に何をすべきなのか、児童が学習の流れを把握して授業に臨むことで、安心して自分たちで授業を進められるようにしていく。

- ① 一緒に検討したい「問い」（発問の工夫）
- ② 学び合いの「考える材料」
- ③ 学び合いをするにあたっての教師や児童同士の視点
- ④ じっくり考える「時間」
- ⑤ 「学習のゴール」の提示（導入時から、関連図書を並行読書していく：単元を貫く言語活動）

学習のゴールを予め提示し、児童に興味関心を持たせながら読書に取り組み、第三次で交流会を行う。

4 学び合いについて

(1) 学び合いの意義

- ① 概念変化：学び合いの意義は、一人一人が自分の考えを作り直すことにあり、自分の考えたことを改めて言葉に表すことで、それが知識の再構築へと繋がっていく。
- ② 主体的・協働的：互いに悩みながら自分なりの答えを創り出していくことで自ら学ぶ力を引き出していく。

(2) 教師が注意すべきこと

教師が思考力・判断力・表現力を育む上で学び合いの必要性を感じた上で行わないと、形だけを踏襲したグループ活動だと中身が伴わず、学び合いが形骸化してしまうこともある。学び合いを基本に据えて、主体的・協働的な学びを踏まえた授業を目指す必要がある。

(3) 「学び合い」の効果（「主体的・協働的な学び」へと繋げていく）

- ① 自己との対話 ② 自己変革を認識する ③ 学びの連続（「タイの養殖」）

(4) 学び合いの成立 及び 学び合いのための素地づくり（省略）

(5) 学び合いの活性化（教師としての役割）

☐ 個と集団の有機的な関わりをつくる	☒ 言語活動を適切に取り入れる	☒ 教師による方向付け・適切な判断
板書を活用して整理・関連付けることで、学び合いを可視化し、思考を明確にする。	適切に入れることで思考を明確にし、意見交換後に自分の考えを文章でまとめるなど。	児童の主体性を大事にしながら、新たな視点や思考の道筋を示す。教師は児童の様子をよく観察し、教師が出る場面を判断。

5 学習形態の工夫（学び合いを行う際の工夫）について

「学び合いだからこそ考えを深めることができた」と実感できる必然性のある学び合いを目指す。

個別学習（一人学び）	ペア学習・グループ学習	全体交流（一斉学習）
学び合いを実践するにあたって土台となる部分。児童それぞれの能力、資質に応じて、個々の自発性を尊重し、学習目標を達成させようとする学習形態。一斉授業では、個々の関心や興味には充分に対応することが出来ないため、一人一人の個性や関心を尊重し、それを伸ばすために取り入れる。	学級を小集団に編成し、その小集団内で学習する方法。教えられるのではなく、実際に取り組んでみて体験的に学ぶこと、また、その学習の過程の中でリーダーシップやフォロワーシップ、協同の取り組みについて学ぶことが目的である。問題点としては、グループでやると自分の主義主張を押し通そうとしたり、リーダーに全て任せて自分は何もせず参加しないという児童が出たり、グループごとに競わせると対抗意識が生じることがある。教師は児童たちの自主活動だけに任せて放任するのではなく、各グループを丹念にチェックし、適宜指導と助言を与えることが必要となる。	個別学習、ペア・グループ学習でそれぞれ出てきた自他の考えを全体で紹介し合いながら、交流を行う。全体で共有することで、みんなに自分の意見を聞いてもらい喜びや楽しみを感じさせる。

IV 検証授業

1 単元名 「説明のまとまりを見つけよう」 ～「生き物のちえやおもしろさ」について調べて発表しよう～

2 教材名 「ヤドカリとイソギンチャク」東京書籍

3 単元設定の理由

(1) 教材観

① 本単元で取り上げる主な指導事項（省略）

② 本教材の特徴（図2参照）

始め・中・終わりの三段構成となっており、「問い」と「答え」が対応していて意味段落を見つけやすく、分かりやすい構成となっている。その関係を押さえることで、正しく答える読解力をつけさせ、意味段落同士が筆者の主張に繋がるよう結びついていることにも目を向けさせる。

3 おわり	2 なか（説明）	1 はじめ	まとめ（大）
まとめ（5）	まとめ（4）	まとめ（3）	まとめ（2）
まとめ	問いと答え3	問いと答え2	問いと答え1
⑤	④③	③②①	①
「ヤドカリとイソギンチャク」の物語の結末を「まとめ」でまとめる。	「ヤドカリとイソギンチャク」の物語の展開を「問いと答え」でまとめる。	「ヤドカリとイソギンチャク」の物語の導入を「問いと答え」でまとめる。	「ヤドカリとイソギンチャク」の物語の導入を「問いと答え」でまとめる。
キーワード	キーワード	キーワード	キーワード
内容・展開・問い・答え・語彙	内容・展開・問い・答え・語彙	内容・展開・問い・答え・語彙	内容・展開・問い・答え・語彙

図2 教材文「ヤドカリとイソギンチャク」の文章構造図

③ 学習の系統「読解の基礎」と既習事項との関連

3年4月「自然のかくし絵」 ○だん落の内ようをとらえる ・段落ごとの内容をとらえながら文章を読む。	4年4月「ヤドカリとイソギンチャク」 ○文章のまとまりをとらえる ・段落と段落の結び付きを考えながら、文章のまとまりをとらえる。	5年4月「動物の体と気候」 ○文章の要旨をとらえる ・文章の構成を考えながら読み要旨をとらえる。
---	--	--

4年 9月 「広告と説明書を読みくらべよう」	○身の回りの文章を読みくらべよう
11月 「くらしの中の和と洋」	○くらしの中にある「和」と「洋」を調べよう
1月 「『ゆめのロボット』を作る」	○わたしたちの生活とロボットについて考えよう

(2) 児童観（省略）

(3) 指導観

学習指導要領「C 読むこと」の(1)イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」、オ「文章を読んで考えたことを発表し合

い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」の内容を身に付けることが、この単元のねらいである。読むことの能力を育てるとともに、教師は学習内容に応じて学習形態を工夫し、児童が学び合いをしていくことで、自己の意見を再構築し、その結果、読みを深めながら、主体的に読むことに繋がるような授業を目指していきたい。

本単元を指導するにあたり、最初に、導入時で前時までの既習事項を確認して振り返らせることを学習の基本とし、次に学習課題を明確に提示することで、学習の流れを児童自身に把握させ、学習への見通しを持たせて、主体的に読ませるようにしていく。

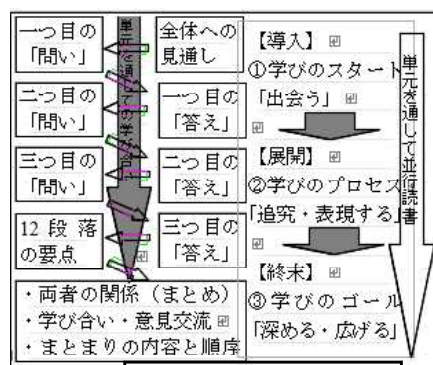


図3 学びの連続性

導 入 時	①前時までの既習事項を確認して振り返らせ、本時の学習の基本とする。 ※次の新しい問いへ
	②発問を精選して行うよう心掛ける。 ※問い直し（言い直し）することは余計混乱を招く。
	③めあての提示：学習の流れを児童自身に把握させ、学習への見通しを持たせて、主体的に読ませる。

展開時では、「問い」と「答え」の関係をもとにして、要点や見出しを書いたり、学び合い活動を取り入れながら、「まとめ（文章構造）」をとらえさせる。また、それぞれの学習課題・内容に合った学習形態をとり、ペア学習やグループ学習の中で学び合いを行わせることで、自分の考えや相手の考えの違いに気づき、お互いの意見の相違点から自己の考えを改めて再構築していくことで主体的に読ませるようにする。時間があれば、両者の関係図をかかせて視覚的に捉えさせるようにする。

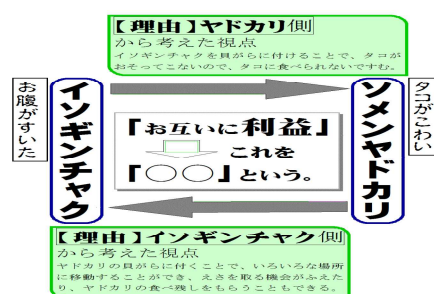


図4 両者の関係図(例)

展 開 時	①読むことの指導（文章構成を正しく理解させるための指導） ・文章を3つの大きなまとまりに分ける。（始め：話題，中：話題の説明，終わり：まとめ） ・中部分が3つに分かれ、「問い」の文がまとまりの分かれ目となっていることの確認する。 ・意味段落が5つに分かれることを確認し、それぞれの意味段落の見出しを考えさせる。 ※どの部分、どの言葉に着目すればよいのかの指導を行う。（文末表現、接続語など）
	②個別学習（一人学び） ・自分の思考を明確にし、自分の考えを文章でまとめさせる。
	③学び合いを効果的に行うための指導（ペア・グループ学習で学び合い活動を行う） ・ねらいを明らかにして、必然性のある学習場面で設定し、学習形態を選択する。 ・学び合いをすることで自他の考えを見直し、少し広い視野から見直していく。（再構築） ・分かってくると次にわからないことが見えてくるので、これを繰り返して深い学びへとつなげる。 ・学び合いを板書で整理・関連付けて可視化することで、全体での学び合いも深めていく。 ※正解を出すためではなく、「答えの探し方」のための学び合いにすることを確認しておく。
	④「ヤドカリとイソギンチャクの関係図をかこう」 ※視覚的に捉えて文章理解へとつなげる。 ・段落の結び付きや文章のまとまりを図で表現して確認することで、教材文との整合を考えさせる。

単元導入時から「学習のゴール」を目指しながら、関連図書を並行読書することにも取り組んでいくので、学年フロアにおける読書環境の整備などにも努めて、児童の興味関心へとつなげていく。

ま と め 時	①全体確認、本時の振り返りを行う。（めあてとまとめの連動） ※学習評価へとつなげる。
	②関連図書の紹介。単元を通して並行読書していく。 ※発展読書として読書へ親しむ態度
	③本教材文を毎日の宿題：音読に課す。 ※常にすらすらと読めることを授業の前提としていく。
	④次時の予告を行い、本時の学習がどうつながっていくのかを考えさせる。 ※学びの連続。

4 単元の指導目標

(1) 単元の目標と評価規準

関心・意欲・態度	C 読むこと（イ）	C 読むこと（オ）	言語についての知識・理解・技能
○ヤドカリとイソギンチャクの関係に興味を持ち、何がどのように説明されているのか関係を明らかにするために読もうとしている。	○教材文「ヤドカリとイソギンチャク」の関係をとり、ええるために、中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係や説明のまとまりに着目して文章を読んでいる。	○関連図書を読んで「生き物のちえや面白さ」について感じたことや考えたことを交流して伝え合い、一人の感じ方の違いや良さに気付くことができる。	○「問い」と「答え」を表す語句の関係や、話題を変える語句に着目しながら、指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、文章を読んでいる。【文及び文章の構成に関する事項（イ・ク）】

(2) 単元の指導・評価計画 (全9時間)

次	時	全	●ねらい	○主学習活動 【交流の学習形態】	○支援と留意点☆言語活動の工夫	【観点】評価方法
1	1	出会う	●ヤドカリとイソギンチャクの関係に興味を持ちながら教材文を読み、何について書かれているのか考える。	①教科書教材に入る前に巨大ポスターと教師の話から入る。 ②写真や題名からヤドカリとイソギンチャクの関係に興味を持つ。 ③写真を見てイメージを膨らます。 【個別→ペア→全体】 ④全文を通読し、形式段落(⑫)を確かめる。【個別→ペア→全体】 ⑤通読後、初発の感想を書き、お互い交流する。【個別→グループ】	○巨大ポスターによって興味を高めさせて、他の生き物のについても考えさせる。 ○電子黒板で写真を見せて、視覚的に捉えさせる。 ○全体確認する前にペアで早く終えた児童から確認させる。 ☆自由な視点で交流させて深め、更に考えたことを付け加えて書かせる。(考えを再構築させる)	【関心・意欲・態度】 ヤドカリとイソギンチャクの関係に興味を持ち、何どのように説明されているのか、関係を明らかにするために読もうとしている。 [発言・ノート]
				①3学年までの既習事項の確認。 ②児童の「なぜ」を引き出ししながら、新たな学習課題を見出す。 【個別→グループ→個別→全体】 ③両者の関係について考える。 「どんな関係？」共生？ 寄生？ ④児童の「なぜ」を基に、学習の見通しを立てる。【個別→ペア→全体】 ⑤「学習のゴール」について説明。 ⑥ヤドカリに命名して次に臨む。	○「答えの探し方・答えのもとになった理由を探す」のための学び合いであることを確認する。 ○文末「か」がつかないものもある。 ○「問い」と「答え」の間には説明やヒントが書かれている事に気づかせ、意識させる。 ○教師がモデルを用意し説明する。 ○☆単元を通して並行読書させる。 ☆興味を惹き付ける命名をさせる。	【関心・意欲・態度】 ヤドカリとイソギンチャクの関係に興味を持ち、何どのように説明されているのか、関係を明らかにするために読もうとしている。 [発言・ノート]
2	3	取り組む	●ヤドカリとイソギンチャクの関係について中心となる語や文を捉えて、大きなまとまり3つに分けることができる。	①話題の提示(形式段落1)について読み、両者の関係(状態)について確認する。【個別→ペア】 ②児童用「文章構造図」ワークシートを配布し、ノートに貼り付け、教師と一緒に記入していく。 ③両者の関係を考えながら教材文全体の構造をとらえる。【グループ→全体】 ・筆者の文章の特徴や良さについて考え、全体の構造を捉える。 ④教材文を大まとも三つ(始め・中・終わり)に分ける。【個別→ペア】	○☆両者の関係についてペア確認補完する。(考えを再構築) ○☆大きく3つに分けたワークシートと一緒に書き込みながら説明をする。 ○☆両者の関係を表す言葉を手がかりに、見つけた言葉を□や○で囲ませ、文のまとまりについて考えさせる。 ○似た意味をもつ段落同士をまとめさせる。 ☆始め・中・終わりのまとまりに小見出しをつけさせる。	【読むこと】 教材文の関係をとらえるために、中心となる語や文をとらえて、文全体を話のまとまりに着目して三つに分けて読んでいる。C(1)イ[発言・ノート] 【言語活動】 伝国(1)イ(キ) [発言・ノート]
				①「問い」と「答え」に着目し、イソギンチャクを付ける理由を読み取り、短文でまとめる。【個別→ペア】 ②まとまり2に見出しをつける。発表を板書して全体交流する。【グループ→全体】 ③「問い」と「答え」に着目し、イソギンチャクを付ける方法を読み取り、短文でまとめる。【個別→ペア】 ④挿し絵(①～④)と文章を結びつけて考える。「絵の隣に説明を書こう」 ⑤デジタル教科書で順序を入れ替えた	☆文頭や文末の表現に着目させ、線を引かせ、短い言葉でまとめさせる。 ☆まとまり(意味段落2)に小見出しをつけさせる。 例「○○○ヤドカリ」 ○「方法」について書かれた意味段落であることを押さえる。 ○グループやペアで学び合い。 ○図と照らし合わせて読む。 ○☆何がどう違うのか、その理由	【言語活動】 伝国(1)イ(キ)[発言・ノート] 【読むこと】 「問い」と「答え」の関係に着目しながら、中心となる語や文をとらえながら読んでいる。 C(1)イ

5	え	て	考	取	組	む	へ	と	に	由	一	●	ヤドカリの貝がらに付くイソギンチャク側の理由について筆者がどのよう	挿絵について理由を述べる。	について言葉で表現させる。	[発言・ノート]
														⑥両者の関係についての動画を見る。	○動画で視覚的に捉えさせる。	
														①前時までの学習を振り返る。	☆まとまり(意味段落3)に小見出しをつけさせる。	【読むこと】
6	取	組	む	さ	せ	る	・	導	入	か	ら	に	者	②まとまり3に見出しをつける。発表を板書して全体交流する。【グループ→全体】	例「○○○ヤドカリ」	の「問い」と「答え」
														③「問い」と「答え」に着目し、イソギンチャクが貝がらに付く理由を読み取り、短文でまとめる。【個別→ペア】	○イソギンチャク側の視点から書かれた部分であるという違い。	の「問い」と「答え」
														④まとまり4に見出しをつける。発表を板書して全体交流する。【グループ→全体】	☆まとまり(意味段落4)に小見出しをつけさせる。	の「問い」と「答え」
7	取	組	む	さ	せ	る	・	導	入	か	ら	に	者	①前時までの学習を振り返る。	☆意味段落5の要点(筆者の考え)についてまとめさせる。	【読むこと】
														②まとまり5の内容について考える。筆者の説明の仕方について考える。【個別→グループ→全体】	○小見出しを黒板に並べて、結び付きを表で整理したり構造図で視覚的に捉えさせる。	文章のまとまり(意味段落)がどのように結びついてい
														③これまでの学習を振り返り、両者の関係を読み取って、まとまり5の要点を捉える。【個別→ペア→全体】	○解決すると次の「問い」が生まれるしかけに気付かせる。	るか、その関係を理
8	取	組	む	さ	せ	る	・	導	入	か	ら	に	者	④次時の予告をする。(関連読書)「興味のある本を選んでおいてね」	○共生関係についてまとめていくことに興味を持たせる。	解している。C(1)イ
																【発言・ノート】
9	取	組	む	さ	せ	る	・	導	入	か	ら	に	者	①前時までの学習を振り返る。	○「筆者が『両者は互いに助け合	【関心・意欲・態度】
														筆者が「両者が助け合って生きている」ということができるのは、どこから?	って生きている』ということがで	両者の関係に興味を持
														②「学習のゴール」として、一緒に選んだ関連図書を読み、『生き物のちえやおもしろさ』について調べて発表しよう」に向けての準備をする。	きるのは・だからです。」	ち、何がどのように説
10	取	組	む	さ	せ	る	・	導	入	か	ら	に	者	③一緒に説明文を書く。(学び合い)個々で説明文原稿を書く。	○読み取ったことを伝え合わせる。	明されているのか、関
														ペア内発表お互い1回目	○☆自分が選んだ本を発表することに意欲的に取り組ませる。	係を明らかにするため
														個々で修正(違いや良い点)	☆生き物たちが助け合って生きている理由(利益)について書く。	に読もうとしている。
11	取	組	む	さ	せ	る	・	導	入	か	ら	に	者	ペア内発表2回目(擦り合わせ)	☆グループで楽しみながら学び合いを行わせる。絵や図もあると分かりやすくなる。	【読むこと】
														↓【個別→ペア or グループ活動】	○考えて書く時間を充分に与え、出来上がったペアから、発表を行わせる。書画カメラを使って、本を投影しながら発表させる。	関連図書を読んで
														④発表会(交流会)を行う。	○生き物の関係の不思議さ、面白さについて考えさせる。	「生き物のちえや面白
12	取	組	む	さ	せ	る	・	導	入	か	ら	に	者	・発表のための視点を与えておく。		さ」について感じた
														⑤最後には、全体を振り返ってのまとめを書き、振り返りを発表する。		たことや考えたこと
																を交流して伝え合
13	取	組	む	さ	せ	る	・	導	入	か	ら	に	者	①学習したことを振り返る。【ペア】(段落相互の関係、まとまり、言葉の順序)	○これまでの学びを想起させ学習の視点を与える。	い、一人一人の感じ
														②全体を振り返っての発表。【全体】	○今回学習したことが、今後の基本(既習事項)となることを伝える。	方の違いや良さに気
														③今後の学習に活かしていく。【全体】		付くことができる。C

5 本時の展開(第7/9時)

(1) 本時のねらい・・・「学習のゴール」としてまとめていく時間

- ① 前時までの学習を振り返りながら、同じグループの仲間と一緒に、同じ興味をもって選んだ関連図書を主体的に読み進め、その内容について説明する文を協力しながら書くことができる。
- ② 書いた説明文の発表会をすることで、グループや全体で交流することを通してお互いに学び合い、

自他の考えの違いや良さに気付くことができる。

(2) 授業仮説

前時まで読み進めてきた説明文「ヤドカリとイソギンチャク」での既習事項をもとにして、関連図書について自分の考え（説明）をまとめる学習を行う際に、同じ本と一緒に選んだ友達や全体での学び合い活動を取り入れることで、自他の考えの違いから、自らの考えを再構築してさらに関連読書の読みを深め、その結果、児童が主体的に読む力を育むことができるであろう。

(3) 本時の展開（第7／9時）

段階	No 学習活動 「発問（案）」 ◆予想される児童の反応	○教師の支援と留意点 ☆言語活動の工夫 ★手だて	検証授業の視点 評価規準(方法)
つかむ	1 前時までの学習を振り返る。 ・筆者の文章の特徴（説明の仕方）について確認。 ◆この文章の特徴は、「問い」と「答え」の関係が繰り返されているところで、それぞれの問いが解決することで次の問いにつながり、その繰り返しによって、まとまりがつけられている。	○前時までの学習を基にする。 ○☆自分が選んだ本を発表することに意欲的に取り組ませる。 【本時のめあて】 「生き物のちえやおもしろさ」について調べて発表しよう 「生き物のちえやおもしろさ」について調べたことを交流することで、友達の発表のよさや自分とのちがいについて気づく。	【関心・意欲・態度】 自分達が興味をもって選んだ関連図書を主体的に読み、何がわかったのか、どこが面白いと思ったのかなどを発表して、交流しようとしている。[発言・ノート]
5分	2 本時のめあてを確かめる。 「仲間と一緒に、同じ興味をもって選んだ関連図書を読み、その本についての説明文を書いて交流しよう。」		
取り組む	3 発表会に向けての準備。【隣ペア or 同グループ活動】 ・自分達が選んだ興味のある関連図書を用いて、交流を行うために読む。【主体的な読み】 ・まずは個々で関連図書を読んで、気付いた点や考えをワークシートに書く。お互いが書き終わったら、最初はペア内だけで交流。【学び合い】 【学び合いの順序】 ①個々で発表メモを書く ②ペア内発表1回目 ③個々で修正して書く（考えを再構築） ④ペア内発表2回目（内容擦り合わせ） 【学び合いの視点】 ①自分の考えを基にする。 ②共通資料を見て多様な考えを出し合う。 ③結論を先に出し合い、お互いの違っている点に焦点を当てて話し合う。	☆その生き物たちが助け合って生きている理由(利益)等についてまとめさせる。 ○☆何故、そのような関係と言えるのか・そう思ったのか互いに考えを述べさせ、気付いた点などメモ欄に書かせておく。(学び合いの材料) ★時間短縮し、内容を整理させるためワークシートを使用。 ○自分と相手のまとめ方の違いや良さに気付く。 ☆★学び合い（深め合い）を楽しませて行わせる。絵や図もあると分かりやすい。 ○★書く時間を十分に与える。	【視点①】 明確な学習課題を提示することで、児童自身が学習の流れを把握して、課題を解決するために主体的に読んでいる。 【読むこと】 関連図書を読んで「生き物のちえや面白さ」について感じたことや考えたことを交流して伝え合い、一人一人の感じ方の違いや良さに気付くことができる。 C(1)オ[発言・ノート]
14分	・お互いの発表を聞いて、考え方の違いや良さに気付いたら、書き加える。(考えを再構築) ・書き終わったら、学び合いを再度行い、自分達はこういった発表をするのか確認をしておく。	☆★学び合い（深め合い）を楽しませて行わせる。絵や図もあると分かりやすい。 ○★書く時間を十分に与える。	【視点②】目的をもった学び合い活動を行うことで、自他の考えの違いや良さから、自らの考えを再構築して、さらに読みを深めている。
深める	4 交流会を行う。(学び合う際の視点を与える) ・号車ごとに、号車内で発表をする。 (最大8人いて、2～4グループが在する) 「生き物のどんな関係が書いてある？」 「自分達と似ているところ、ちがうところは？」 「相手がこの発表で伝えたいことは？」 ・発表を聞きながら気づいた点をメモにとる。 ・(紹介する良例があれば)全体での学び合いも深める。	○生き物同士が助け合ったり利用して生きていることの不思議さ、面白さについて考えさせる。 ○★全体で主体的に「読みを深める交流」をはかる。 ★全体で交流する際には、書画カメラを使い、関連本を映し出しながら発表させる。	【視点③】振り返りの活動において、めあてにそった自己評価を行うことで、児童が本時の目標の達成を実感している。
20分			
振り返	5 全体確認、本時の振り返りをノートに書く。 6 次時の予告（第8／9時）をする。	○ノートの振り返りをもとに教師は児童理解度を確認。	

6 本時の評価

【関心・意欲・態度】自分達が興味をもって選んだ関連図書を主体的に読み、何がわかったのか、どこが面白いと思ったのかなどを発表して、交流しようとしている。[発言・ノート]

【読むこと】関連図書を読んで「生き物のちえや面白さ」について感じたことや考えたことを交流し

7 授業仮説の検証

授業仮説の検証	検証の視点	評価規準			検証方法
説明的な文章において、児童が主体的に読む力を育むことができるように、毎時とも前時までの既習事項を押さえ、課題提示の工夫や学習形態の工夫をしながら、互いの考えや意見を深め合う(学び合い)ことは、主体的に読む力を育むことに有効であったか。	①前時までの既習事項をもとにして、教師が毎時の課題を明確に提示し、児童が学習の流れを把握することで、主体的に読む力を育てていくことができたか。	A 十分満足	B 満足	C 要努力	ワークシート (交流用)
		課題を解決するために、積極的に主体的に読み進めることができた。	課題を解決するために、主体的に読み進めることができた。	課題を解決するために、主体的に読み進めることができていない。	
	80.6%	16.2%	3.2%		
	②学習形態を工夫しながら学び合いを行い、自他の考えの違いや良さから、自らの考えを再構築していくことで、更に読みを深めることができたか。	一人一人の感じ方の違いや良さ、新発見に気づき、自らの考えを再構築できた。	交流を通して、一人一人の感じ方の違いや良さに気付くことができた。	交流の中で、気付いたことについて、うまく書き表すことができていない。	
51.6%		38.7%	9.7%		

また、資料3の交流会後(右部分)の感想からは、「1. 考
えの違いや良さ、2. 新しく分かったこと、3. 自分が思っ
たこと、気付いたこと」等の記述が見られるようになった。授業開始時(左)の頃の感想と比較す
ると、自他の相違点から自らの考えを再構築した変化の様子が見て取れた。

資料 1 交流会用ワークシート①資料 2 交流会用ワークシート②

ぼくは、ヤドカリとイソギンチャクを読んで、海の中には、助けあって生きているし、助けあっている魚は、自分自身もとくをしているので助けあうのは、とてもいいなあと思いました。他にも助け合っている魚を知りたいです。

【Aさんの変容】
前：思ったこと
知りたいこと
↓
後：自分との違い
新しい知識
思ったこと

ぼくは、交流会で自分たちの考えとは真ざやくだったので全て同じというわけではないんだなと思いました。ぼくは、それぞれの外敵や困っているところを書くのがむずかしかったです。ぼくは、自分の幼虫ですらも道具にするというのは、ちょっとひどいかなと思いました。一人だけ得をするのはちょっとずるいなあと思いました。

世界には、とてもふしぎな生き物がいるということがわかりました。まだまだわたしがわからない生き物がいると思うので、とても楽しみです。

【Bさんの変容】
前：わかったこと
楽しみな気持ち
↓
後：思ったこと
自身への気付き
意欲・新発見

わたしが今日の学び合いでいいなあと考えたことは友だちの発表を聞く交流会をひらくことです。そして今日むずかしかったことはクマノミと、イソギンチャクの関係について調べることでした。わたしは、まだまだわからないことがたくさんあるので、いっぱいしらべて、たすけあういきものについてくわしくなりたいです。それからわたしが気づいたことは、いろいろな魚たちがわたしたちのわからないところで、たすけあっているということです。

資料3 感想の変化の様子 ①考えの豊や良さ、②新しく分かったこと、③自分が思ったこと、気づいたことなど2つ以上書いたら『A』評価

これらのことから、交流会において、興味のある本と一緒に選んだ友達との学び合いや全体での学び合い活動を取り入れることで、自他の考えの違いから、自らの考えを再構築してさらに関連読書への読みを深めている様子が伺えた。この結果から、今回の検証授業から、学び合い活動を行うことは「児童が主体的に読む力を育むことに有効であった」と言える。

V 研究の結果と考察

研究の考察については、授業観察（発表、学び合いの様子）、ノートのふり返り、ワークシート、単元全体をふり返っての感想、国語の意識アンケート調査、単元テストをもとに行った。

- 1 （説明的な文章において）前時までの既習事項を基にして、教師が毎時の課題を明確に提示し、児童が学習の流れを把握することで、主体的に読む力を育んでいくことができたか
- (1) 主体的に読む力を育む指導について

検証授業の実施前後に行った「意識アンケート」結果からは、「国語の勉強は楽しい」「国語の授業の内容はよくわかる」に改善が見られ、「国語の勉強は大切だと思う」が100%に、「国語の勉強は将来役に立つと思う」が90%から97%へ向上した。

特に注目したいのは、質問「説明文を読むことは楽しい」の数値が55%から87%へと大きく向上したことで、また、実施前には「説明文を読むことは楽しくない」と答えていた児童がゼロと改善した。今回、改善が見られた理由として、

- ① 毎時間導入時で、前時の振り返りを行い、それを基に本時の学習を展開した。また、学習計画表(図8)や文章構造図(図2)を用いて、課題を視覚的に捉えさせ、児童に学習の流れを把握させた。
- ② 学習形態を工夫し、学び合い活動を適



図5 児童の関心を高めるため用意したオリジナルポスター

図6 「学習のゴール」に向けての関連読書コーナー

図7 児童が興味を持って主体的に読み進めている様子

	第三次				第二次				第一次	学習計画表 (全9時間)
	深める・広げる				追究・表現する				出会う	
★	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
7/9 (金) 2校時	7/9 (金) 3校時	7/9 (金) 4校時	7/10 (土) 1校時	7/10 (土) 2校時	7/10 (土) 3校時	7/10 (土) 4校時	7/10 (土) 5校時	7/10 (土) 6校時	7/10 (土) 7校時	
単元テスト	学習のまとめ				教材文の読み②				教材文について①	ヤドカリとイソギンチャク
	今までの学習の振り返り				教材文の読み③				先生文・形式読解・初級読解	
	生活の場や遊びの場について調べ発表しよう				教材文の読み④				教材文について②	
	学習のゴール				教材文の読み⑤				大きなまとまり	
	関連図書を選ぶ				教材文の読み⑥				文章構造図「問い」をさがす	
	問い「2」と「答え」1、筆者考え				教材文の読み⑦				教材文について③	
	問い「3」と「答え」2、筆者考え				教材文の読み⑧				教材文について④	

図8 学習全体への見通しを持たせるための学習計画表

宜取り入れて、お互いの考えを確認し合う場を設けた。学び合い活動によって楽しみながら課題に取り組み、自他の考えの相違点から、考えを広げたり深めたりして、自己の考えを再構築したことで、主体的に読む力を育むことができたということが考えられる。

(2) 本研究における付けたい力に関わる「読むこと」の指導内容について

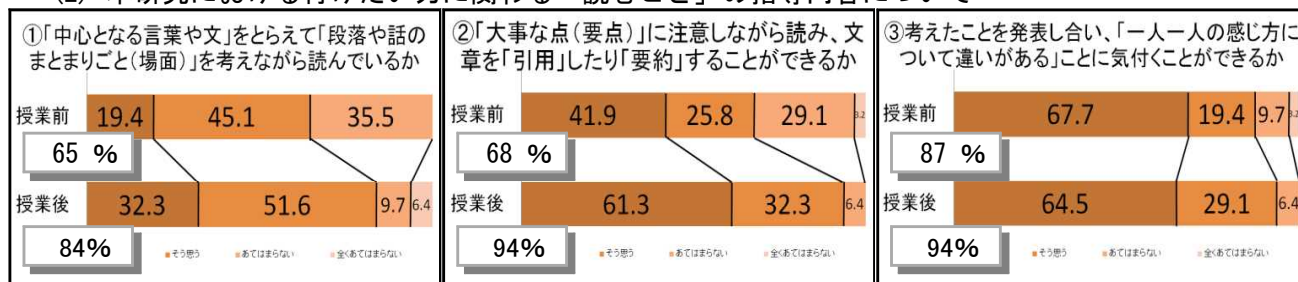


図9 ①～③

図9 ①が65%から84%へ、②が68%から94%へと向上する大幅な改善が見られた。③では、「当てはまらない」「全く当てはまらない」と答えていた児童が共に減少し、授業後のアンケートの自由記述欄には、「文を読んで要約することが楽しい」「長い本(内容)が楽しい」「場面を考えることが、とっても楽しい」「文章をまとめたり、読んだり、説明文を書くことが楽しい」という記述も見られるようになった。本単元テストの結果は、学級平均93.7点、8割通過率96.7%(一人75点)、満点31名中 17名と好成績であった。一つ前の「読むこと」の単元テスト結果は、平均86点、8割通過率80.6%、満点は6名であり、比較してみると点数が大幅上昇したことが分かる。今回、改善が見られた理由として、

- ① 全時で通読し、前時までの既習事項を押さえた上で、課題提示したことで、児童自身が学習の流れを把握し、主体的に読み進めた。
- ② 文章構造図(図2)や両者の関係図(図4)を用いて、まとめ(意味段落)の内容や関係、両者の関係性を視覚的に捉えさせた。
- ③ まとまりに見出し(図10)をつけたり、「何故そのような考え・答えになるのか」という理由を考えさせた等、以上3点が考えられる。



図10 まとまりの見出し

(3) 課題提示の仕方について

図11 ①②とも9割へと改善した。全時を通して、児童がふり返りを書く際には「めあてとふり返りを連動(整合)させる」ように指導し、意識して臨ませたことで、めあて(課題)を把握して、更にふり返りの改善にも繋がったのではないかと考えられる。

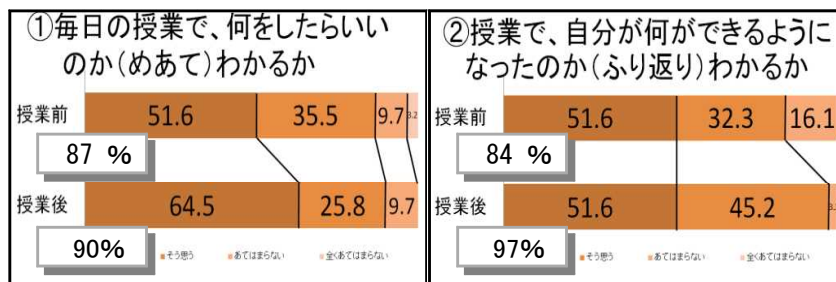


図11 ①②

2 学習形態を工夫しながら学び合い(深め合い)をおこない、お互いの考えや意見の相違点から自己の考えを再構築していくことで、主体的に読む力を育てていくことができたか

(1) 学び合い活動について

「意識アンケート」結果によると、「友達と『学び合う』ことは楽しい」が検証授業実施前後で94%と変化が見られなかった。

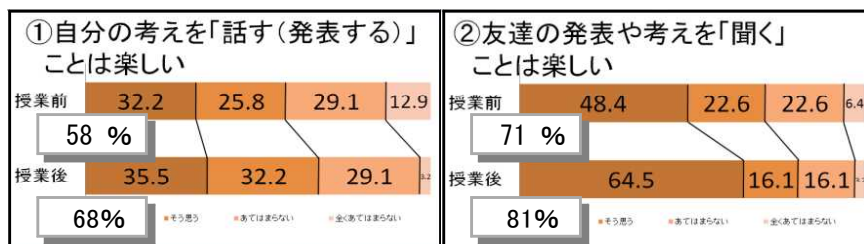


図12 ①②

しかし、図12 ①は58%から68%に、②が71%から81%へと改善した。今回、改善が見られた理由としては、資料4にもあるように、当初は苦手意識を持っていた「話す・聞く」ことに対して、学び合い活動を意図的に取り入れたことにより、お互いの考えを補足し合い、自分の考えに自信が持てるようになったのではないかと考えられる。

3年生までは自分の考えと他の人の考えがよくにいたり思ま
いしあったりしていました。でも高学年の仲間入りをして、
みんないろいろ考えるようにし、意見が立ちあがってくるようになりました。

わたしが、ペア、グループの学び合いで気づいたこと
は、一人でやるより友達とうして考えをほうか、自分の
わからなかったことがわかるようになる。



図13 交流会（話す・聞く・深める）

資料4 学び合いを行っての感想の様子

(2) 学習形態の工夫（学び合いを行う際の工夫）について

検証授業実施前後を比べてみると、元々、児童の意識は高かったこともあって、図14は87%から90%へと微増に留まったが、質問「『一人』で活動（自力解決）することが楽しい」は35%から58%へと向上した。また、「『全体』で交流することが楽しい」という質問に対しては、実施前後と比べて71%から78%と微増ながら改善が見られた。改善が見られた理由として、図15や図16のように、お互いが学び合うことを通して、それに伴って学びの素地となる一人学びも充実し、併せて強化されたのではないかと考えられる。

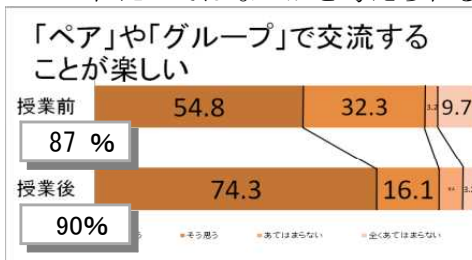


図14 交流に対する意識の変化



図15 ペア学習の様子



図16 グループ学習の様子

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 読む環境作りとして、学習のゴールや学習計画表を提示したり、文章構造図や両者の関係図を用いて視覚的に捉えやすくしたことで、児童が学習への見通しを持って進めることができ、児童が主体的に読み進めることができる授業づくりができた。【V-1 (1) (2) (3)】
- (2) 学び合い活動を取り入れたことで、自己の考えを再構築していくことへと繋がった。また、自身で自己変革を認識し、学びの実感や充実感を味わうことができた。【V-2 (1) (2)】

2 今後の課題

- (1) 児童に主体性を持たせながら取り組ませるための課題提示の仕方、中心発問の設定。【V-1】
- (2) 教材の提示を効果的に行い、発問と課題を精選し、焦点化を図る。【V-1】
- (3) 活発な学び合いを行うため（形骸化させないため）に、学び合いの視点の明確化。【V-2】

〈主な参考文献〉

- | | | | |
|-----------|---|---------|-------|
| ○石田佐久馬 | 編集『説明文でなにをどう学ばせるか②—中学年—』 | 東洋館出版社 | 1991年 |
| ○須田 実 | 編著『読む力・考える力を育てるノート指導』 | 明治図書 | 2005年 |
| ○藤田伸一 | 著『論理的思考力を育てる説明文の授業』 | 学事出版 | 2007年 |
| ○有田和正 | 著『教え上手』『自ら伸びる』人を育てる | サンマーク出版 | 2011年 |
| ○Benesse | 『VIEW21』小学版 2011 Vol.2 特集「思考が深まる『学び合い』」 | | 2011年 |
| ○沖縄県教育委員会 | 『わかる授業 Support Guide』 | | 2013年 |
| ○文部科学省 | 『小学校指導要領解説 国語編』 | 東洋館出版社 | 2015年 |
| ○沖縄県教育委員会 | 『平成28～30年度 学校教育における指導の努力点』 | | 2016年 |
| ○明治図書 | 『教育科学 国語教育』No.793 2016. 1『実践国語研究』No.335 2016. 2/3 | | 2016年 |